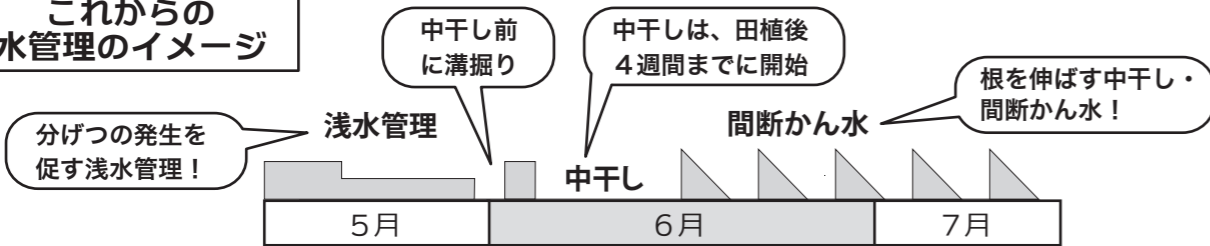


# 第4号 稲作管理特報

令和6年5月20日  
朝日町  
黒東地域農業技術者協議会

収量・品質を安定させる第1歩は、『初期生育の確保から!』です。  
まずは、浅水管理を徹底し、分げつの発生を促しましょう。  
次に、田植え後4週間までに中干しを開始し、夏の高温に耐えられるしっかりとした「根づくり」に取り組みましょう。

## これからの水管理のイメージ

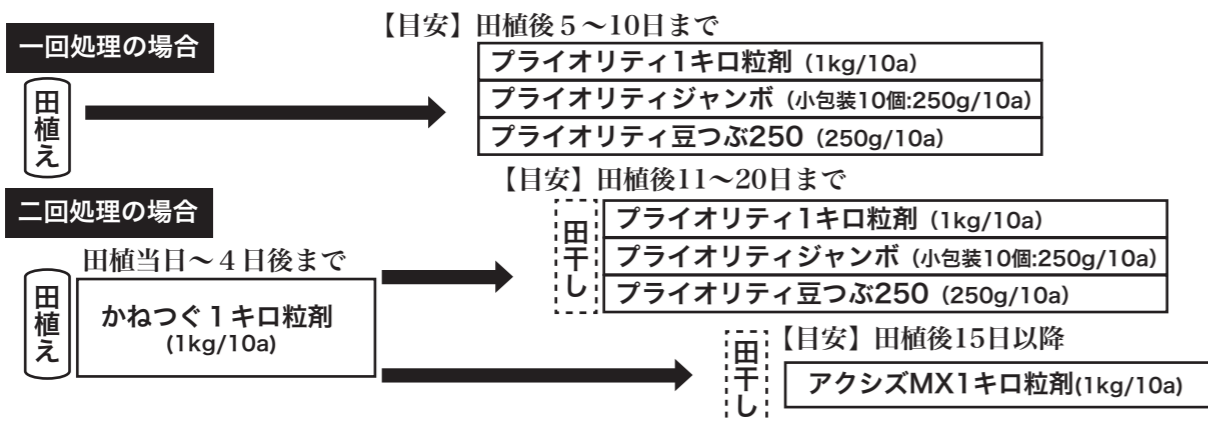


## 1. 浅水管理 ～初期茎数を確保する～

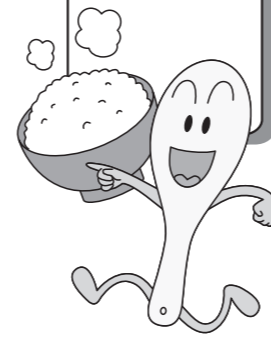
- 活着後は、水深3cm程度の浅水管理で水温を高め、分げつの発生を促しましょう。
- 入水は早朝か夕方に行い、日中は止水で田水温の上昇に努めましょう。
- 強風や低温時には水深5cm程度の深水にし、天気回復後は浅水管理に戻しましょう。
- 藻が発生している場合は、水の入れ換えを行いましょう。また、ガスが湧いている場合は、1～2日程度の軽い田干しを行いましょう。

## 2. 除草剤散布 ～散布後5日間は湛水状態を保つ～

- 気温が高いと雑草の生育が早まるので、薬剤ごとの散布目安を参考に、遅れずに散布しましょう。
- 散布前に5cm程度入水し、5日間は湛水状態を保ちましょう。チラ干しを確認したら、薬剤の処理層を壊さないようゆっくりと入水し、散布後7日間は落水しないください。
- 2回目の除草剤散布前に1～2日程度の軽い田干しを行い、藻を除去し、除草効果を高めるとともに、根に酸素を与えましょう。
- 藻や表層剥離の多発ほ場では、ジャンボ剤や豆つぶ剤の使用は避けましょう。



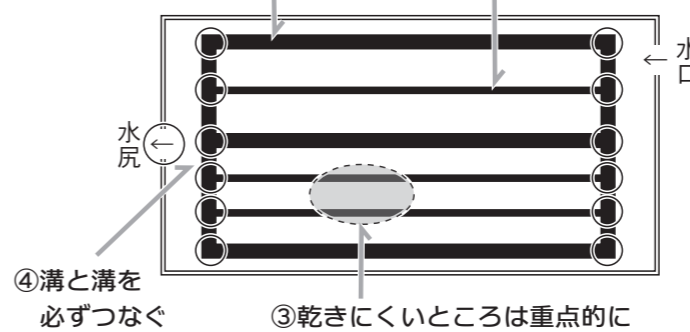
『溝掘り・中干し』は適期を逃さずに行い、しっかりと根を伸ばそう!



## 3. 溝掘り ～中干しの効果を高める～

- 溝掘りは、中干し前に必ず実施しましょう。
- 溝は5mに1本を目安に掘り、ほ場の周囲と中央の1本は、特にしっかりと掘りましょう。また、掘った溝は、水尻まで確実に連結しましょう。
- 粘質土や排水不良の場合は、額縁排水溝もほりましょう。

②額縁と中央の溝はしっかりと ①5mに1本を目安に



軽く田干しを行い、泥を落ち着かせてから溝を掘ると、溝がしっかり残ります!



### 《溝掘りの効果》

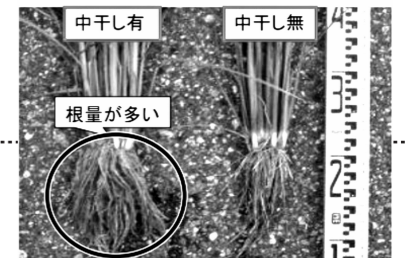
- ほ場のすみずみまで均一に干すことができる。
- 間断かん水の際など、水の出し入れがスムーズに行える。

## 4. 中干し ～根の量をしっかりと増やす～

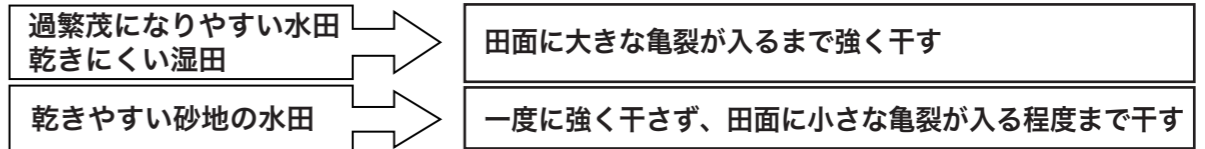
- 中干しは、晴れ間を見極めて田植え後4週間以内に開始しましょう。

### 『中干しの程度』

- 中干しは5～7日間程度行い、田面に小さな亀裂が入り、“足跡が残る程度”まで干しましょう(一度に干せなかった場合は、数回繰り返す)。



【中干しによる根量の違い】



### 【中干し開始日の目安】

田植日	中干し開始日
5月10日	6月7日頃
5月15日	6月12日頃
5月20日	6月17日頃



【中干し終了頃のほ場の状態】

ただし、『干し過ぎ』は、稲の生育にダメージを与えます。数回に分けて適度に田干しを行いましょう!

※葉色が濃く、過繁茂気味の田や乾きにくい田は、やや強めに干しましょう。(ただし、落水期間は7日間以内とし、週に1度は溜まらない程度に入水する。)  
※茎数が少なめの田や乾きやすい田は、1度に干しあげないようにしましょう。

### ★JAみな穂営農情報メールを配信しています。

#### 提供内容

- ・ 水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・ 気象情報と災害防止の対策

右のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

